

令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援経費
プロジェクトの名称	新たな在留資格「特定技能1号」の現段階の評価と今後の対応策に関する研究
報告者氏名・所属・職名	孔 麗・函館校・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	
研究内容及び成果の概要	
<p>今後、日本では少子高齢化を背景に、産業を担う働き手が不足することが予想されている。新たな在留資格「特定技能1号」もこの深刻な働き手不足が背景にある。</p> <p>しかし、その在留資格者は政府の目論見を大幅に下回っている。その原因としては、申請書類の不備、最大の受け入れ国であるベトナムで国外試験が実施されていないなどの送出国側の対応の遅れのほかに、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延による出入国規制などが考えられる。しかし、それだけで政府の目論見と実態の大きな差は説明ができない。</p> <p>むしろ、「特定技能1号」という新たな在留資格が外国人材のニーズに応えたものになっていないことに起因するのではないかと考えられる。また、雇用主側には、日本人従業員並みの待遇を求められているが、最低賃金水準しか支払えないことから、技能実習生を反復利用する方が得策であり、使い勝手がよいなどの理由もある。</p> <p>要するに、創設された「特定技能1号」が外国人材にとって魅力的なものとなっておらず、技能実習制度が並行して継続されているという制度設計に問題があるのではないかと考えられる。この課題について、入国管理庁データのほか、技能実習生に対する意向調査をもとに接近を試みた。</p> <p>研究の成果としては、一つに、政府の目論見との大幅な乖離の原因について現段階における考察を行った。また、技能実習生の主たる送出国である中国とベトナムについて、今後も日本に送り出せるか否かについて分析を行った。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】 孔麗「新在留資格「特定技能1号」における政府の目論見と実態との乖離—その要因と改善策試案—」『国際地域研究Ⅲ』第2章（単独執筆）、大学教育出版社、2021年4月、pp32～51</p> <p>【学術論文】 孔麗「中国とベトナムによる日本への技能実習生送出しの継続可能性—労務輸出政策と労働市場をめぐる情勢からの考察」、函館人文学会「人文論究」第90号、2021年3月、pp55～68</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
函館校における社会科教育分野の教材として利用可能である。	
配布又はダウンロード可能な資料	いずれもダウンロードはできないが、『国際地域研究Ⅲ』は市販。『人文論究』は20部の別刷りがあるが、希望者全員に配布はできない。
問い合わせ先	代表者：孔 麗 電話：— FAX：— mail：kon.ri@h.hokkyodai.ac.jp